

## 令和2年度 東日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会 議事録

開催日時：令和2年12月15日（火） 15：00～16：40

場 所：WEB会議

出席者：赤羽委員長、飯島委員、大串委員、後藤委員、寺部委員、椋田委員、村田委員

### （1）事業評価手法の見直しについて

審議方法の見直しについて、事務局提案のとおり了承された。

### （2）事業再評価における審議案件の選定について

審議案件の選定について、事務局提案のとおり了承された。

### （3）事業再評価の概要と今後の対応方針（原案）等

#### [一括審議案件]

- ・常磐自動車道（いわき中央～亘理）及び 一般国道6号 仙台東部道路（亘理～仙台港北）
- ・一般国道126号 千葉東金道路（東金JCT～松尾横芝）

#### [今後の対応方針]

今後の対応方針（原案）「事業継続」については、事務局案のとおり了承された。

#### [主な意見や質疑]

- ・常磐道及び仙台東部道路
  - ①コスト削減内容の確認。
    - ⇒ 約4km分のガードレール現場発生材を使用した。
  - ②事業化が昭和61年度と古いが、期間が長いことにより事業費増となったのか。
    - ⇒ 区間ごとに順次事業化されたものであり、個別の事業期間は大きく延びていない。
  - ③事業期間が非常に長くかかっているように見えるが、全国路線網の優先順位の中で順番に事業化されてきたものであり、ネットワーク全体での評価が望ましいのではないか。
- ・千葉東金道路
  - ①完成予定年度を令和8年度としている理由の確認。
    - ⇒ ネットワーク全体の優先度から整備時期を判断した。
  - ②事業期間が前回から19.4%遅れているが、次回の取扱い。
    - ⇒ 仮に事業期間が前回から20%超の遅れとなれば、重点審議として選定される。

#### (4) 事後評価の概要と今後の対応方針（案）等

##### [審議案件]

- ・一般国道45号 仙塩道路（仙台港北～利府中）

##### [今後の対応方針]

今後の対応方針（案）については、事務局案のとおり了承された。

##### [主な意見や質疑]

①計画交通量は事業計画の判断に大きな影響を与える。実績交通量が計画交通量を大きく上回っている理由の確認。

⇒ 震災以降の交通需要及び高速道路利用率の上昇が予想以上に大きいと考えられる。

②費用便益比が大きく上がっている理由の確認。

⇒ センサデータや交通量推計モデルの違いによる。

③事後評価においては、直接効果を評価した現在の費用便益分析に加え、経済波及等の間接効果の発現を確認することも重要である。

④CO2 排出量やエネルギー削減に配慮した取組みの確認。

⇒ e c o インターの取組紹介（遮熱塗装折半屋根、太陽光発電設備、LEDユニットを採用した情報板等）

⑤国内の観光需要の掘起しのため、出発地でのプロモーション活動に注力してほしい。

#### (5) 今後のスケジュール等

国および会社における決定・公表までのスケジュールについて報告。

#### (6) その他（報告）

最近の高速道路の状況（交通量の推移等）について報告。

以 上